

■平成23年度地震工学会受賞者

日本地震工学会では、「一般社団法人日本地震工学会定款第3条(8)項」および「一般社団法人日本地震工学会一般規則第2条(5)項」に規定される「業績の表彰」に基づき、表彰規定を改訂し、平成23年度より「功績賞」、「論文賞」、「功労賞」の3賞を新たに創設いたしました。さらに、理事会による審議を経て、強震データの提供により地震工学の発展に寄与された4社の法人会員に、「感謝状」の贈呈を決定しました。心よりお祝い申し上げます。

授賞式は本年5月24日に日本地震工学会の総会の際に実施されます。

平成23年度地震工学会功績賞

賞の区分	受賞業績名／業績発表論文	授賞者名（敬称略）
功績賞	大正12年関東大震災に関する被災調査研究等による地震工学および地震防災の進歩と発展に対する貢献	武村雅之（名古屋大学）
	<p>■受賞理由：地震学・地震工学が専門で、震災から国民を守るためには過去の教訓を知ってそれを後世にしっかり伝えることが重要であるとの考えに基づき、歴史資料や体験記録などをもとに歴史地震の揺れと災害現象の解明に精力的に取り組んできました。特に、四半世紀にも及んでいる関東大震災に関する一連の調査研究では、強震動の観点から、震源過程、揺れの詳細な地域分布の推定を行うとともに、揺れの違いが建物や人々の被災状況に及ぼした影響についても明らかにした。これまで定説となっていた被害統計データを見直した結果は、今後の地震防災対策を検討する上での重要な基礎情報となっている。そして、これらの研究成果を本会も含めて地震防災関連の理学系・工学系の各種学会に多数発表し、本会の大きな役割の一つである関連学協会の連携強化にも大きく貢献している。また、わかりやすく解説した本を多数執筆し、市民レベルへの啓蒙活動も精力的に行っている。本会においては、2002年から2年間は理事、2005年から2年間は監事、そして2008年から2年間は副会長として本会の運営に貢献されるとともに、2002年から現在に至るまで本会メールニュースの巻頭言の執筆を継続して行い、本会会員の活動に大きく貢献している。</p> <p>以上の永年にわたる精力的な活動と多大なる成果に対して、功績賞を贈呈するものである。</p>	
	地震観測網の整備と強震観測データの公開による地震工学および地震防災の進歩と発展に対する貢献	（独）防災科学技術研究所
<p>■受賞理由：わが国では、現在、数千点で地震観測が行われており、地震発生後早期に強震記録が公開されている。これらのデータは、地震工学研究だけでなく、地震被害の早期評価、避難、応急復旧などの防災実務でも非常に有益な情報源となっている。</p> <p>防災科学技術研究所による地震観測網〔強震観測網（K-NET、KiK-net）、高感度地震観測網（Hi-net）、広帯域地震観測網（F-net）〕はこうした全国における地震観測とその早期公開の先鞭をつけたものである。</p> <p>この内、強震観測網（K-NET、KiK-net）については、観測点の詳細な情報、検索機能、ユーティリティプログラム、表層のPS検層や土質調査の結果などもインターネット経由で公開されており、この先進的な試みは、その後の強震観測のあり方に大きな影響を及ぼし、多くの機関でも強震記録を公開し始め、地震工学研究が大いに活性化されることとなった。運用開始から15年以上が経過しているが、その間、様々な地震で貴重な強震動記録を提供してきた。それらのいくつかは、その後の地震工学研究の</p>		

	<p>進展に大きな影響を及ぼした。震源過程のモデル化、1Gを超える大加速度記録の成因解明、長周期地震動評価、液状化を含めた地盤の非線形増幅メカニズムの解明、構造物被害の原因の究明など、強震動記録に基づく研究成果は数限りない。さらに、得られた強震動記録は、耐震設計実務での構造物の動的設計でも活用されている。2011年に発生した東北地方太平洋沖地震においても、K-NETによる強震動記録は非常に有益であり、様々な地震現象の理解と地震被害原因の解明に寄与した。</p> <p>以上のように、防災科学技術研究所の地震観測網の整備と強震観測データの公開は、地震工学研究の発展に顕著な功績があると認められ、防災科学技術研究所関係者の不断の努力と熱意に敬意を表し、功績賞を贈呈するものである。</p>
--	--

平成23年度地震工学会受賞者功労賞

功労賞	<p>盛川 仁（東京工業大学）</p> <p>■受賞理由：2004年より2012年3月までの長年にわたり、本会電子広報委員会委員として、ウェブサーバーシステムの維持・管理に尽力し、本学会の発展と事業の推進に対して貢献</p>
	<p>中村孝明（篠塚研究所）</p> <p>■受賞理由：2009年6月～2011年5月において、本会の総務担当理事として、理事会の企画・運営全般を行うとともに、本学会の発展と事業の推進に対して貢献</p>
	<p>鹿嶋俊英（建築研究所）</p> <p>■受賞理由：2010年6月～2012年5月において、本会の情報担当理事として、ウェブサーバの更新に尽力し、本学会の発展と事業の推進に対して貢献</p>

平成23年度地震工学会感謝状

授賞者名（敬称略）	表彰理由
東京電力株式会社	平成23年東北地方太平洋沖地震他で観測された強震記録の提供
東北電力株式会社	平成23年東北地方太平洋沖地震で観測された強震記録の提供
中部電力株式会社	平成21年駿河湾の地震で観測された強震記録の提供
日本原子力発電株式会社	平成23年東北地方太平洋沖地震で観測された強震記録の提供

平成23年度地震工学会論文賞

賞の区分	受賞業績名／業績発表論文	授賞者名（敬称略）
論文賞	確率論的地震動予測地図の検証／ 地震工学会論文集第11第4号、2011 年11月掲載	石川 裕（清水建設(株)技術研究所） 奥村俊彦（清水建設(株)技術研究所） 藤川 智（清水建設(株)技術研究所） 宮腰淳一（清水建設(株)技術研究所） 藤原広行（独立行政法人 防災科学技術研究所） 森川信之（独立行政法人 防災科学技術研究所） 能島暢呂（岐阜大学）
	<p>■受賞理由：本論文は、確率論的地震動予測地図の検証として、過去に遡った確率地図を作成し、その予測結果と、当該期間に発生した地震による地震動強さとの実績とを全国約600万メッシュのデータを用いて定量的に比較・考察したもので、そのアプローチは世界で類を見ないほど独創性を有する。過去の地震との対比により、確率地図の有用性のみならず、確率地図の見方に対する留意点や課題が的確に指摘されており、確率地図の工学的利用に対して有意義な知見を与えている。なお、本論文が投稿された後に東北地方太平洋沖地震が発生した。この地震は本論文で扱っている対象期間外であるが、社会に極めて大きなインパクトをもたらした地震であり、本論文の補遺としてこの地震による地震動強さについても補足的な考察が追加されている。</p> <p>以上のことから、本論文は論文賞に相応しいと判断した。</p>	